

2021

2月

月次 39レター

毎月発行するお客さまへのお知らせレターです

第198号-①【基準日 2021年1月29日】



社長メッセージ



マーケットに居続けることの大切さ



ありがとう投信株式会社
代表取締役社長 長谷 俊介

皆さま、いつもありがとう投信をご愛顧いただきまして誠にありがとうございます。早いもので今年も1ヶ月が過ぎました。引き続き新型コロナウイルスの影響が様々な方面で続いており、緊急事態宣言も1ヶ月延長されることになりましたが、いかがお過ごしでしょうか？寒い日が続く、長期間の自粛生活によるストレスと運動不足で免疫機能が低下して体調を崩しやすいので皆さまくれぐれもご自愛ください。

さて、先月1月のマーケットは、米国でのバイデン大統領就任による財政拡大期待から株価は堅調に推移し、環境関連や半導体関連の銘柄を中心に上昇していましたが、月末にかけて米国の一部個人投資家による投機的な売買行動が報じられるとマーケットのボラティリティが急上昇し、リスクオフの流れとなって月初の水準まで下落して1ヶ月を終えました。そのような中で、皆さまのありがとうファンドの先月の騰落率は月間1.5%の上昇になりました。参考までに世界株は1.6%の上昇、日本株TOPIX配当込みは0.2%の上昇となりましたので、世界株に対してはやや出遅れた1ヶ月になりました。



世界のマーケットは依然として、景気や企業業績の回復期待を先取りする動きの中、新型コロナウイルス感染収束の時期や有効なワクチンの普及の動向に左右される相場展開が続いております。一部の銘柄には投機的な値動きが見られるように、各国政府・中央銀行による財政支出と金融緩和による過剰流動性相場の弊害も見られており、上下にボラティリティの高い相場状況が当面続くと思われます。

アクティブな銘柄選択の違いで差がつく相場環境

このような状況下においては、アクティブな銘柄選択がより重要になってきます。金融緩和による過剰流動性の過熱相場の中で企業業績を伴わずに株価だけ上昇している銘柄については、調整局面を迎えたときには大きく下落する可能性が高い一方で、コロナ禍においても企業利益を安定的に成長させている銘柄は、株価が調整しても一時的ですぐに回復する可能性が高いと考えられます。このように、現在の相場環境は、アクティブな銘柄選択の違いによって運用成果が左右されると言えるでしょう。

ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号 一般社団法人投資信託協会会員

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。

ありがとうファンドの投資先銘柄は景気変動に左右されずに持続的に安定成長していくクオリティグロース銘柄が中心です。景気動向に左右される景気敏感株やバリュー株中心に相場全体が大きく上昇する局面では全体の上昇にはついていけない傾向がありますが、反対に相場全体が大きく下落する局面では相場程には下落せずに下げ止まる傾向があります。

短期的な相場を予測して下落相場をうまく回避し続けることはできないので、弊社では一貫した変わらない運用方針でマーケットタイミングリスクはとらずに幅広い国・地域への国際分散投資による資産配分とアクティブな銘柄選択による厳選投資によって、ボラティリティが大きな相場状況の中でも、ダウンサイドリスクを抑えながら長期的に優れた運用成果をこれからも目指して参ります。

資産運用で大切なことはマーケットに居続けること

個人の資産運用で大切なことの一つにマーケットに居続けることがあります。

世界の株式市場の過去数十年の実績を見ると債券など他の資産クラスと比べて高い利回りを上げてきました。また、金融庁も国民の安定的な資産形成を推進しているように、過去20年間、30年間、積立投資をした場合としなかった場合で大きな差がつく結果になることは皆さまよくご存じの通りです。ここで注意が必要なのは、これらは過去の市場実績で算出されていますが、前提条件として、ずっとマーケットに居続けて資産運用や積立投資を継続していく必要があるということです。途中で売却したり、積立投資を止めてしまった場合にはシミュレーション通りの運用成果にはなりません。

過去30年間を振り返っただけでも、大きな出来事として、日本のバブル崩壊、アジア通貨危機、ITバブルとその崩壊、米国同時多発テロ、サブプライムローン問題、リーマンショックと世界金融危機、東日本大震災、欧州債務危機、異次元金融緩和、チャイナショック、ブレグジット、マイナス金利政策、トランプ相場、そして、昨年のコロナショックから現在の低金利・過剰流動性による上昇相場へと続いておりますが、過去の株式市場の平均的な運用成果を得るためだけでも、大きな上昇相場も下落相場も経験しながらマーケットにずっと居続けて資産運用を継続していく必要があるのです。

しかしながら、過去30年間マーケットにずっと居続けられた人は、それほど多くないのではないのでしょうか。大きな上昇局面やマーケットの暴落局面で売却せずに保有し続けて投資を継続するのが簡単ではないことは、昨年のコロナショックからのこの1年間のマーケットを振り返ってもお分かり頂けると思います。

このように個人の資産運用で大切であり、かつ実践するのが一番難しいのはマーケットに居続けて投資を継続することではないかと思えます。資産運用を長期で継続している間には様々な事が起こりますが、日々の価格変動に一喜一憂せずに、上昇相場でも下落相場でも平常心で淡々と継続することが資産運用で成功するための秘訣ではないかと考えます。

弊社では、お客様から託された資金を長期・国際分散・厳選投資でリスクを抑えながら安定的な運用成果を目指して運用するとともに、お客様が資産運用を長期で継続できる仕組みや便利なサービスをご用意して一生サポーターさせていただきますので、今後ともありがとう投信をご愛顧いただきますようお願い申し上げます。



積立投資のススメ！

長期投資には、コツコツと分散しながら長期に渡って購入する「定期積立サービス」がおすすめです♪

「定期積立サービス」とは

…毎月決まった日にお客様が決めた金額を、自動で購入してお客様の資産をコツコツ積み立てていくやり方です。引落とし手数料も無料♪お忙しい方にもおすすめの投資方法です。



①『無理なく続けられる』

お手元にまとまった資金がなくても、毎月少しずつ積み立てることで大きな資産へとつながっていきます。貯金感覚で続けていきながら、複利効果でリターンチャンスとなります。

②『リスクを分散』

定額での購入で基準価額が高い時に少なく、安い時に多く投資することができます(ドル・コスト平均法)。相場がいい時もよい時も投資を続けることで、平均買付単価を低く抑える方法です。



③『時間分散』

タイミングを分けることで、リスクを分散することができます。時間を味方につけることで、長期でじっくり投資を続けることができます。



タイミングを見計らうのではなく、
時間を味方につけていきましょう！

期間	平均取得単価	損益
1年	19,560円	+19.4%
3年	18,688円	+24.9%
5年	17,626円	+32.4%
10年	13,448円	+73.6%
初回(2004年10月)から	11,827円	+97.4%

投資信託をいつ買えばよいか？とのお客様の声が多いですが、投資信託は、タイミングではなく、時間での分散が効果的です。長期で常にタイミングを計ることはとても難しく、かなりの労力を必要とし、それでも確実にいいタイミングで買える保証はありません。

それよりも、ゆっくりと長い時間をかけて、コツコツ投資していくほうがはるかに続けやすく買付単価を平均化されることで、分散の効果が得られます。

＜ご参考＞毎月1万円積立した場合		
期間	投資額	評価額
1年	12万円	14万3220円
3年	36万円	44万9719円
5年	60万円	79万4697円
10年	120万円	208万3173円
初回(2004年10月)から	196万円	386万8712円

2021年1月29日現在(基準価額:23,345円)

※上記表は毎月同一金額を継続して積立した場合の平均取得単価となります。
※積立による購入は将来の収益を保証、基準価額下落時における損失を防止するものではありません。
※計算過程で出る端数の処理等、損益比率計算過程において簡略化した計算式を用いています。

毎月定期購入サービスのスケジュール

今後のスケジュールになります。各締切日に間に合わない場合、翌月の取扱いとなりますのでご了承ください。

	【新規で定期購入を申込】 【引落し口座変更】	【定期の引落とし金額を変更】 【定期引落としを中止】	【引落日】	【買付申込日】	【約定日】 (ファンドの購入日)
2021年 2月分	1月5日(火)	1月27日(水)	2月8日(月)	2月17日(水)	2月19日(金)
2021年 3月分	2月4日(木)	2月24日(水)	3月8日(月)	3月16日(火)	3月18日(木)
2021年 4月分	3月4日(木)	3月25日(木)	4月6日(火)	4月14日(水)	4月16日(金)
2021年 5月分	4月5日(月)	4月20日(火)	5月6日(木)	5月14日(金)	5月18日(火)

ありがとうファンド売買申込不可日のお知らせ

下記の売買申込不可日にお申込みされた場合、自動的に翌営業日以降の受付となりますのでご注意ください。

2月	15日(月)	ワシントン誕生日	ニューヨーク証券取引所休業日
3月	-	-	-
4月	2日(金)	グッド・フライデー	ニューヨーク証券取引所休業日 ルクセンブルクの銀行休業日
	5日(月)	イースター・マンデー	ルクセンブルクの銀行休業日



ありがとうファンドのリスク及び手数料等について

リスク	当ファンドは、ファンドオブファンズであり、国内外の投資信託証券などの値動きのある証券に投資します。また、外貨建て投資信託証券に投資する場合には為替の変動もあります。なお、投資信託証券の組入証券の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、価額が下落し、損失を被ることがあります。したがって、ご投資家の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本が割り込むことがあります。ファンドに投資することに伴うリスクはお客様のご負担となりますし、ファンドへの投資による損益も全てお客様に帰属します。また元本及び利息の保証はなく、預金保険の対象でもありません。
手数料	申込手数料・換金手数料・信託財産留保金はありません。
信託報酬	ファンド純資産総額に年 0.99%(税抜 0.9%) 以内の率を乗じて得た額とします。 [実質的信託報酬 信託財産の純資産総額に対し年 1.55%±0.2%(概算)] ※当ファンドは他のファンドを投資対象としており、投資対象ファンドにおける所定の信託報酬を含めてお客様が実質的に負担する信託報酬を算出しております。
その他費用	ファンドに組入れる有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料(消費税を含む)及び税金等の費用は信託財産から支払われます。また、その他、信託事務の処理に要する諸費用、監査費用、受託会社の立替えた立替金の利息等についても、信託財産の毎月末加重平均残高が 120 億円以上の場合には、諸経費のうち 100 万円(税抜き)までは信託財産から支払われます。※実費の額は、今後組み入れファンドの追加や変更があった場合、変動してくるものであるため事前に料率、上限額等を表示することができません。

※リスク・費用等の詳細につきましては、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。目論見書のご請求は、ありがとう投信株式会社 カスタマーサービス部まで。【〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-15-9 フリーコール 0800-888-3900】

【レポートで使用している指数の注記】 騰落率は、FACTSETよりデータを参照し、弊社にて計算しております。

TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。S&P500種指数(S&P500)に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はS&P Dow Jones Indices LLCに帰属します。MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI に帰属します。

■R&I ファンド大賞について

R&I「ファンド大賞」は、R&Iが信頼し得ると判断した過去のデータに基づく参考情報(ただし、その正確性及び完全性につきR&Iが保証するものではありません)の提供を目的としており、特定商品の購入、売却、保有を推奨、又は将来のパフォーマンスを保証するものではありません。当大賞は、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定されるその他業務(信用格付業以外の業務であり、かつ、関連業務以外の業務)です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置が法令上要請されています。当大賞に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利はR&Iに帰属しており、無断複製・転載等を禁じます。

ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号 一般社団法人投資信託協会会員

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。